

認知症は「病気」です ～早期発見で早期治療を～

最近物忘れがひどくなった、判断力が低下したなどの不安を抱えている方はいませんか？また、家族が見ていて「置き忘れや紛失が頻繁にある」「もの忘れの自覚がない」「不安が強く、日に何度も電話してくる」「自分で片付けたのに「盗られた」と主張する」などの症状はありませんか。このような症状がみられたら認知症の疑いがあります。

様子がいつもと違うと気づいたりできるのは、家族などその人と暮らしている身近な人たちです。認知症と似た症状があらわれる別の病気を発症している可能性もありますが、身近な人による早期発見は、早期治療に結びつき、その結果、病気の進行を緩やかにすることもできます。

★老化による物忘れと認知症による物忘れの違い

年を取ると認知症でなくとも物忘れが多くなります。「名前が出てこない」「何じに」「どこに来たんだっけ」など、これは脳の老化の一つで自然の事です。物忘れしている事に気づいていきますし、生活上支障は全くありません。大枠で、老化による物忘れと認知症による物忘れを比較すると、下表の通りです。

★認知症ではないか？と思った時には  
様子がいつもと違うと気づいたら、かかりつ

	老化による物忘れ	認知症による物忘れ
症状	名前や日付など、とっさに思い出せない。	体験した全てを忘れている。最近の出来事の記憶がない。
時間/居場所	意識がある。理解できる。	時間や自分のいる場所が分らなくなる。
幻覚/妄想	無い。	幻覚や妄想を伴う場合もある。
人格	変化無く、維持される。	人格崩壊を招く場合もある。
日常生活	支障無く生活できる。	日常生活を営む事が困難。

け医に相談してください。しかし、認知症なのか否かを見極めるのは容易ではありません。そこで、かかりつけ医を介して認知症の専門医がいる「認知症疾患医療センター」(注1)に連絡を取ってください。認知症は、約2年で軽度から中等度へ進行するという報告もあります。「認知症かもしれない。でもまさか」といつくうらでも相談することをおすすめします。

★認知症疾患医療センターを介した診断の流れ

1. 「認知症疾患医療センター」に電話する。最近物忘れが多くなった。怒りっぽくなった。身の回りのことができなくなつた。もしかして認知症のはじまりかもしれないなどの不安や悩みをおもちの方は認知症の鑑別を依頼するため電話します。
2. 電話または通院による専門医療相談の申し込み
3. 専門医の診療と検査予約
4. 鑑別診断の結果および治療方針の説明  
診療情報提供書、鑑別診断問診票、検査等の総合診断の結果から、認知症の状態等について説明し、診断結果についてかかりつけ医への診療情報提供書が渡されます。

注1

認知症疾患医療センター▼地域の医療機関と連携をとり、認知症疾患に関する鑑別診断・治療方針の選定、専門医療相談、医療関係者へのアドバイスを行います。各府県が指定する専門医のいる医療機関 大阪府では府内6カ所、大阪市内3カ所、堺市内2カ所の医療機関が指定されています。

★正しい受診のしかたをしよう

認知症は急に症状が悪化するわけではなく、数年をかけてゆっくりと進行するのが特徴です。

- ① 第1段階では物忘れが激しくなります。そのことで不安になり、イライラすることもありますが、また、物事に無関心になったり、うつ状態に陥ったりすることもあります。
- ② 第2段階は日付や場所、人に対する見当識障害がみられるようになります。この頃になると道に迷ったり、今までできていたことができなくなったりして、日常生活に支障をきたすようになります。
- ③ 第3段階になると食事や排泄の手順がわからなくなり、体も弱って動きが鈍くなるでしょう。

こうしたゆっくりとした進行段階において、本人が病院に行きたがらないとか、病院へ連れて行きたくても何と言えはいいのかわからない、また、本人が受診を拒むケースもあるでしょう。嘘をついたり、無理やり病院へ連れて行ったりすると、その後の治療も困難になります。長い間お世話になっているかかりつけ医から専門医を受診するように話してもらおうのも一つでしょう。

★本人告知は慎重に

認知症であることを告知するかどうかは難しい問題です。告知することで本人の協力のもとで希望に沿った治療やケアを行うことができます。しかし、一方では本人がショックを受け、不安が増大したり、将来を悲観したりもかねません。特に、若年性認知症の場合には仕事や家族などあらゆる問題を抱えることになるので、より慎重な判断を要します。担当医とも密に連携をとり、その後のケアにも重点を置く必要があります。